



またも、生徒作文が新聞掲載！

6月16日と6月18日の2度、福島民報新聞に、生徒の作文が掲載されました。これで今年度になって5度目となります。まずは、**角田寧恩さん(2年)**の作文です。「絶滅の恐れのある生き物を守ろう」というタイトルで、「命あるものをつないでいくことはできる。それが人間の役割であると思う。」として、生物の命をまもることの大切さをうたっています。素晴らしい内容だと思います。

絶滅の恐れのある生き物を守ろう

角田 寧恩

福島民報のジュニア新聞に載っている「生きもの大好き」という記事を読んで、日本の生き物についてもっと知りたくなった。

記事ではトキが取り上げられていた。トキは一度この日本から姿を消している。コウノトリなども絶滅の恐れがあり、保護されている。トキをはじめ多くの生物が人の手による環境の急変や乱獲によって絶滅、あるいは絶滅寸前に陥ったのだと考えられる。

人間とほかの生物の立場を逆に考えてみたらどうだろう。今まで当たり前前に生活していた場所に後から別の生物がやってきて自分たちに都合のいいようにすべてを破壊し、先にいた人間が生きていけなくなってしまおうとしたら、悲しいことだと思う。

しかし、日本で見られなくなったトキを中国から贈られ増やしてきたのは、ほかならぬ人間だ。絶滅した生物たちは戻ってこないが、命あるものをつないでいくことはできる。それが人間の役割であると思う。

次に、6月18日の朝刊に掲載された**原陽菜乃さん(2年)**の作文です。「たくさんの情報新聞読んで得る」というタイトルで、新聞の情報量の多さや、読む力・考える力を高めることができるものとして捉えています。

たくさんの情報 新聞で得る

原 陽菜乃

5月29日の福島民報に、2週間かけて新聞一紙を読む会津若松ザベリオ学園高の取り組みが紹介されていました。とても良い取り組みだと思います。

先日、学校で「新聞を読んで意見文を書く」という課題が出て、普段あまり読まない新聞に隅々まで、目を通しました。そうすると、日常生活では知ることのない詳しい社会情勢や地域の小さな出来事などを知ることができたのです。

角田さん、原さんともに素晴らしいのは、これまでの新聞記事を読んで、自分の考えをもち、論を展開しているところです。

私は日頃、テレビのニュースを見ます。テレビにもいいところがたくさんありますが、新聞ほど多くの情報を得る事はできません。改めて新聞の良さを知りました。

今後も、多くの本や新聞に触れ、自分の考えで自分の言葉で表現できる力を更に伸ばしてほしいと思います。

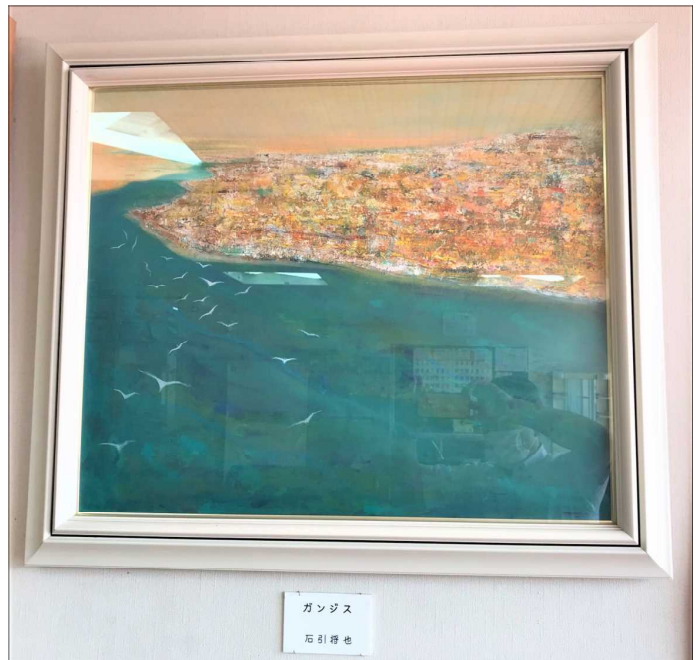
また、ザベリオ学園高のように2週間もかけてじっくり読むことで、たくさんの情報を得るだけでなく、読む力や考える力も身に付くと思います。

私もこれからは、新聞を読むようにしていきたいと思います。

校長室の絵画

表郷中学校の校長室の壁に掲げてある油絵は、石引将也さん作の「ガンジス」という絵です。作者の石引将也(いしびきまさなり)さんは、東京都出身の画家ですが、現在は、大信の大屋地区にある「ごんたくら美術館」を経営していらっしゃいます。今から40年前に東京からこちらにこられ、家を建てられたそうです。この「ガンジス」という絵は、インドに数年行っていたことを回想し、日本で描いた作品というところでした。(実は、先日、電話して聞きました。)表郷の方に差し上げたものが学校に寄贈されたのではないかとおっしゃっていました。

校長室にある絵画の作者と話をすることがなかなか無いため、貴重な経験となりました。



石引将也画「ガンジス」

ヒマワリ移植のための穴掘り作業

6月17日(木)、代議員による穴掘り作業が行われました。この週は、放課後に雷雨があり延び延びになっていましたが、やっと晴れて、作業を行うことができました。掘った穴にヒマワリの苗を植える作業を、期末テスト終了後に行う予定です。このヒマワリは、震災復興プロジェクトの一環として始まったものです。本校では、毎年、同じヒマワリの種を牛乳の紙の容器のポットで苗を育て、植え替えをしています。本校では、このヒマワリを咲かせる作業を通して、生徒の和を大事にしようという「いじめ防止」の意味も込めています。大きな花が咲くのが楽しみです。



期末テスト、明日から

明日、6月23日(水)、24日(木)の2日間、期末テストを実施します。今年度初めての定期テストです。1年生にとっては、人生初の定期テストです。これまでの授業で学習してきたことがどれだけ自分の中に定着しているか確かめるテストです。冷静に問題に向き合ってください。